

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス西宮たんぼぼ（わたぼうし）			公表日 2026年2月26日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令に基づく十分なスペースが確保されています。活動内容に合わせ、1階2階、また複数ある部屋の使い方を考え有効に使えるよう、工夫しながら過ごしています。	1階のカフェスペースでの活動空間も含めると、十分な広さが確保できています。広いスペースを有効利用できるよう、さらに工夫をしています。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められた配置基準に沿って人数を配置するとともに、定期的に学生ボランティアも療育に参加しております。	今後も児童数に応じた適切な職員配置するとともに、管理栄養士が調理活動の取り組みに参加したり、調理メニューの考案に参加できるようにします。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		フラットな床や、エレベーターの設置、トイレは車いすでも入れる空間でありおむつ替え台の設置、補助便座の活用等でバリアフリー構造となっています。	活動スペースが広いので、こどもに分かりやすい環境の整えを行うとともに、死角になりやすい箇所はないか、日々よく観察点検し、より安全で過ごしやすい環境を整えています。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		木の床ややさしい色の家具や壁紙等で、落ち着いた空間づくりを心掛けています。また毎日こどもたちと掃除の時間を設けることで、清潔を保ちつつ、こどもたちの衛生意識にもアプローチしていきましょう。	今後も清潔で心地よい環境作りに努めるとともに、都度療育や活動の内容やこどもの状態に合わせてスペースの有効活用を検討し、地域の方とのよりよいかかわりができるような生活空間の使い方を模索していきます。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		活発に過ごしたい子や集中したい子に合わせてお部屋を分ける工夫をし、必要に応じてグループ分けをして過ごしました。またパーティションカーテンも活用することで空間作りもしました。	引き続き、こどもたちひとりひとりに合わせて、部屋の使い方やスペースの区切り方を工夫していきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員懇談を実施して個々での目標の設定を行い、振り返った際の達成度合いも考えられるようにしています。また会議等で職員から療育について振り返る場も設けました。	よりPDCAサイクルの効果を高めていながら、参画したメンバーの意見を集約する方法も考えていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員会議にて結果について共有し、職員同士で、事業所の強みをより活かす方法や、弱みに対してできる対策等を、アンケートにて提出してもらったとともに、今後の具体的な取り組みについて話し合う機会を設けました。	アンケートの結果を受け止めながら、保護者の意見を大切に受け止め、より良い改善方法を見出していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に個別面談を実施したり、職員会議やクラス会議でも意見交換ができる場を設けています。	職員間のコミュニケーションの方法を再度構築し、業務改善にもつながる適切な役割分担ができるようにしていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		2022年度に第三者評価を行い、評価結果をもとに業務改善を現在も実施しています。	・5年に一度、第三者評価を受けています。次回は2027年度に実施予定です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部研修に参加したり、事業所での職員研修や、法人全体研修等の内部研修も行い、支援の質を高めるよう努めています。	今後もより効果的な研修の機会を設けたり、外部との繋がりを広げていくことを続けていきます。
環境・体制整備	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPIにて公表しています。また、前年度におたよりにて保護者に具体的な支援プログラムをお伝えして、ご利用日を選んではいただいています。	ご利用者には、公表されている場所をより周知するとともに、事業所を探っておられる方にも、たんぼぼのプログラム内容や目的がより分かりやすく伝わるように考えていきます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		SM社会生活能力検査を活用し、ご利用者の生活能力に関するアセスメントを、療育に参画する職員みんなで行いました。また保護者に要望書に記載いただき、ニーズの分析を行っています。	今後も同じアセスメントツールを使うのか、また、アセスメント結果の活用方法を検討し、よりこどもたちのニーズをとらえ、個別支援計画に反映できるように努めていきます。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		職員の見立てや観察したことを日々の振り返りやクラス会議にて共有するとともに、職員との「モニタリング会議」を実施することで適切な共有理解を持って個別支援計画を作成しています。	さらに広く職員からの意見を取り入れる方法や、共有する場の創出は今後も考えていきます。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		クラス会議や、日々の打ち合わせや振り返り時に、個々の支援計画の詳細について都度共有をしたり、役割分担をしたりしています。	今後もより深く計画職員間で周知できるように働きかけていき、より理解の深まった状態で療育が実施できるようにします。

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○	SM社会生活能力検査を活用し、ご利用者の生活能力に関するアセスメントを使用し、また日々の観察を細やかにを行うことを心がけています。	今回つかってきたアセスメントツールに関して、取り組みやすさや療育的効果等を検討し、再度アセスメントツールの模索を行います。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	ガイドラインに記載されている5領域を踏まえた様式を使用し個別支援計画を作成し、それをベースに具体的な支援の計画が立つようにしています。	今後も、計画を立てる際には、ガイドラインの項目を意識を高めることでより多岐にわたった視点で支援ができるように心がけ、各ねらいをより達成できる方法を模索していきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	全体職員会議や、クラスごとの会議等で、案を出し合う機会を設けることで、チームで立案することに繋がっていききました。	今後も意見交換のしやすい場を設けるとともに、チームで役割分担を細かく行うことを意識し、チームの力を強めていきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	利用者の成長や、取り組み様子を見ながら取り組む方法や、内容を何度も修正改善しながら考えていきました。また同じ調理であっても季節のものを取り入れたり、利用者の反応を見ながら変化を付けていきました。	より固定化しないための取り組みとして、より広く職員の意見や、案を抽出してプログラムを行うようにし、再度プログラムの内容を見直していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	活動内容や利用者ひとりひとりに合わせて、全体で行ったりグループに分けたり、個別で行ったり、都度考えて支援を行いました。	今後も支援目的に対し、効果的で安心できる参加方法や過ごし方を深く考えて支援を実施していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎回療育前に打ち合わせを行い、その日の流れや支援内容、役割分担、利用者の状態について丁寧に確認をしています。	今後も準備や打ち合わせの時間は大切にしておくことで、よりチーム連携が深まり、効果的な支援が実施できるようにします。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	毎回療育後に療育メンバーに加えて管理責任者も参加して振り返りを行い、その日の支援内容や活動プログラムに対して、意見を出し合っています。	今後も振り返りの時間を充実させていくことで、その日の気付きが次回にいかすことのできる仕組みを模索していきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	毎回個別記録に支援の状況や様子を残り、次の支援に活かせるようにしています	記録の取り方、記録用紙の書式等、より支援の改善に活かせる方法を検討していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半期に一度モニタリング会議を実施し、支援に携わる職員、管理責任者で支援計画に関して丁寧な見直しを行っています。	より広い意見をモニタリングに反映させられる方法を考え、適切な見直しに繋がるようにします。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	ガイドラインの4つの項目を取り入れられるような計画を立て、療育を実施しています	今後もガイドラインの内容への理解を深め、求められている広く多岐にわたった支援ができるように心がけます
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	利用者のやりたいことや、好きなことを選ぶような遊びの時間を用意できるように心がけています。また、意志の発音がまだしにくい方には選択肢を用意したり、意志を組んだりする工夫もしています。	これからも、利用者の自己決定力に繋がるような支援を模索していき、実践していきます。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	クラス担任や、管理責任者が参画することで、より詳しくその子の様子が共有できるようにしています。	さらに他機関と連携が深められるように働きかけることで、生活全体を見越した支援ができるようにします
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	アレルギーマッチやかん等をもちの子は、医療機関や主治医の情報を聞いておき、連携ができるようにしています。また、必要に応じて相談支援事業所と状況を伝えあったり相談をしたりしています。	地域の他機関や、その方の主治医とさらに連携の取れる方法を考えていきます。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	保護者を通して行事予定表を提出いただいたり、週間スケジュールの記載いただいたりして把握しています。また、サービス担当者会議の参加や保育所等訪問支援の併用にて学校との連携をとりました。	今後も学校の情報を細かく把握することで、こどもたちひとりひとりの生活に密接した支援を行えるようにします。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	併設している児童発達支援や保育所等訪問支援をご利用されている方がそのまま継続して放課後等デイサービスに通っておられるケースが多いため、情報共有や相互理解が行いやすく、こどもたちも安心して移行ができています。	児童発達支援のこどもたちとの交流の時間を定期的に持ったり、丁寧に引継ぎを行うことでより相互理解に努めていきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	中学三年生までの受け入れであることで、就労等の障害福祉サービス事業所に移行する利用者がいなかったことで、実施できていません。	今後、該当する利用者がいらっしまった場合は丁寧に情報提供を行ってまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	こども未来センターでの訓練報告書を保護者を通していただき、職員間で共有しています。また、サービス担当者会議にて、担当児に関する助言を受けることも多いです。	他機関との連携を深めるとともに、こども未来センターでの研修にも積極的に参加していきます。

携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	併設して運営しているカフェに、地域のこどもたちが遊びに来ており、出会いや関わりがありました。	地域に開かれた当事業所の良さをいかしながらさらなる交流を実施していきます。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○	今年度1回協議会に参加しました。そのほかの会の内容は、西宮児童デイサービス事業所連絡会にて情報共有をしています	これからも地域の集まりや協議会へ参加していくことで情報収集や連携を行っていきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時に保護者との情報共有を行い、療育の様子のお伝えや家庭での様子の聞き取りを丁寧にやりました。	ご家庭との連携をさらに深めることで、生活全体に根ざした支援を実施していきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	保護者会を実施することで、先輩の保護者のお話を聞ける機会を設けるとともに交流のできる時間を作りました。	次年度も引き続き保護者会を実施していく予定です。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	契約時に運営規定や支援プログラム、利用者負担額等について説明を行い、質問等あればその場で答えています。	支援プログラムや、その目的や意図等、より理解いただきやすい伝え方を考えていきます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	日頃よりこどもの観察をこまめに行い本人のニーズをくみ取っていくとともに、送迎時に保護者の意思の聞き取りを行い、半期に1度「要望書」をご提出いただいています。	こども、保護者の意図を引き続き丁寧に汲み取っていくことで、よりニーズに合った支援が提供できるようにします。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	個別面談をする時間を設け、管理責任者とともにクラス担任も同席して丁寧に説明・同意を得るようにしています。	支援の意図や目的がより伝わり、ご理解を得られる伝え方を模索していきます
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	送迎時に保護者とのやり取りの中で子育てに関するご相談に応じるとともに、必要に応じて別途時間を設けて面談を行っています。	ご相談しやすい雰囲気や仕組み等を考えることで保護者のお悩みに答えやすいようにしていきます。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	保護者会を開催することで、保護者同士の交流を設けるとともに、法人イベントとして「発達を考える会」や「きょうだい児の会」等を開催しています	引き続き、交流する場を提供していくことで、保護者同士の安心できる繋がりを作れるようにします
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	契約時に苦情受付の窓口をお伝えし、周知を図っています。また、玄関にご意見を発信できる用紙を設置するようにしました。	今後苦情があった際には迅速に対応するとともに保護者の意見を大切にしていきます
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	毎月療育の様子や開催行事の詳細をお伝えするお便りを発行するとともに、HPでこども様子を発信。またインスタグラムや公式ライン等で情報発信を行っています。	公式ライン、会報やクラスだよりの活用等、保護者が求める情報を、より届きやすい方法を検討し続けます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	契約時に個人情報についてのご説明しています。また、写真の使用について、細かくアンケートを取ることで同意を得られるようにしています。	個人情報により注意深く配慮していきます
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	学校やご家庭でのコミュニケーション方法を伺いながら、文字やイラスト、写真等、こどもひとりひとりにとって分かりやすいコミュニケーションの方法を実施しました。また、保護者に向けての発信も、お便りの配布に加えて必要に応じて個別でご説明をしています。	これからその子その子に合うコミュニケーションの支援を行い、気持ちの発信を促すことで、成長に繋がっていきます。また、より情報発信のしやすい方法を探ります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域の神社で「火を囲む会」を開催したり、秋まつり、こども食堂、ひだまり親子探検を開催したり、地域に開かれたカフェを運営する等、地域との繋がりを深められるようにしています	次年度は地域に開かれたバザーの開催も予定しており、さらに地域との繋がりを深めています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	作成した各マニュアルをもとに、こどもたちとの避難訓練を実施しており、その様子等を保護者へお伝えするようにしています。	マニュアルをHPにて発信する等、保護者への周知の方法を探っていきます。また、保護者に避難訓練の様子を見ていただく等も検討します。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	BCPの策定を行い、法人職員全体でBCPを想定した訓練の実施を行い、非常災害の想定をしました。	これからも定期的に訓練等を実施していくとともに、必要に応じて都度BCPの改定を行います。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	入園契約時に細かく聞き取りを行い、対応方法を確認するとともに、毎年度初めに改めて服薬やてんかん等についての確認を実施しています。	引き続き細かな対応を行っていくとともに、てんかん時の対応や薬に対する研修等を検討します。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	契約時にアレルギーの確認を細かく行い、調理活動の際には、使用する材料を事前に公表するとともに、アレルギーや未接種のものがなく都度聞いています	今後も食育を実施していく中で、丁寧にアレルギーの確認を行い、食材への理解を深め定期します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	職員研修の場で災害や不審者対応等を学ぶ場を設けるとともに、定期的に訓練の実施を行っています。また、職員が順番で施設の安全点検を実施しています。	丁寧な安全点検を続けていき、気が付いたことや改善点を出し合っていくことで、より安全管理に努めます。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	契約時に避難場所等の確認を行ったり、緊急連絡先を毎年度初めに都度聞くことで連携がスムーズに取れるようにしています。	マニュアルや安全計画の周知の方法を検討して実施していきます

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが起きた際に、都度振り返りの時間に再度起きない対策について分析を行うとともに、用紙に記載して次回の打ち合わせの際に共有ができるようにしています。	状況分析や、丁寧な周知を続けていくことで、今後も再発防止を図っていきます。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待に関する職員研修の場を設け、防止への意識や知識を高めるとともに、適切な対応ができるようにしています。	定期的に研修の場や、自身の姿勢を振り返る場を設けていくことで、日々意識を高く持てるようにしていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関する職員研修の場を設け、組織的に決定をする流れを整えています。	現在該当する利用者がいないため、実施はしていませんが、今後やむをえない場合が出てきた際には、適切な流れで対応していきます。